

佐那河内村の民間薬調査

----- 生薬班 (徳島生薬学会) -----

村上光太郎 ^{*1}	菅 愛 ^{*1}	越智 俊政 ^{*1}	坪内 良子 ^{*1}	中川 博之 ^{*1}	近藤 京子 ^{*1}
田中 直伸 ^{*1}	湯浅 修子 ^{*1}	梅本 怜美 ^{*1}	岡坂 衛 ^{*1}	河野 正治 ^{*1}	佐川 貴昭 ^{*1}
山崎 真知 ^{*1}	岩佐 唯士 ^{*1}	高石 喜久 ^{*1}			

1. 目的

民間薬はその地に根ざして伝承されていくものもあるが、ある時代にメディアなどの感化によって使われはじめるもの、時代の変化で新たに起きた要求によって発生するものなどがある。これらの民間薬が、ある物は受け継がれ、ある物は消えていく。消えていく物は、すべてが、効果がない物という事ではない。しかし、効果のない物は早く廃れ、効果があれば、受け継がれていきやすいのは事実である。とは言え、たとえ効果があっても、よりよい医療方法があつて消えていく物もある。又、価値観の差により、消えていく物もある。

医学の発達で、民間薬の重要性は減少しているようにも見える。その反面、健康雑誌やテレビなどのメディアに登場する民間薬は増えている。そのことは、民間薬の中には、現代医療に貢献できる何かを持っていることを示唆し、効果の高い民間薬の発掘が望まれている事を物語っている。そのためには、本当に有望な民間薬が消えて無くならない前に、記録に残し、科学的メスを入れ得る状態にしておかなければならない。

2. 調査日と調査方法

2001年(平成13年)7月25日から8月1日までの8日間、佐那河内村の民間薬調査を行った。

民間薬の調査の方法は、各班員が各家を訪問し、在宅の人に限らず、田畑や山等で仕事をしている人、道を歩いている人など、人を見つけて民間薬の使用

や記憶に残る民間薬について聞き取り調査をした。

過去における民間薬の調査で、調査する人により、詳しく聞く人と、そうでない人との差が認められたので、今回も「民間薬調査の方法」を作り、それに従ってもらうこととした。

1) 民間薬調査の方法

- (1) 道ばたの人、働いている人、家にいる人にかかわらず、人を見ると調査対象とします。
- (2) 最初に、徳島大学薬学部の方ですが、阿波学会の調査の一貫として民間薬調査をしています。ご協力をお願いしますと言って下さい。
- (3) 調査は、知っている民間薬、使ったことのある民間薬をたずねて、教えてもらう方法を取ります。名前を知っているだけ、人から聞いただけでも良いので教えてもらって下さい。良く効いたというのがあればそのことを記載して下さい。
- (4) ただ民間薬と言っても解らないことがありますのでその場合は、傷には何か付けませんかとか、やけどには何か付けませんか、腹が痛いときはどうしますかなど実際の症状をあげて聞いて下さい。
- (5) それらの民間薬をほぼ聞き終わったと感じたら、さらに、重複しても良いので、特に動物を薬として使用するものがあるかどうか聞いて下さい。
- (6) 言われている民間薬が、自分たちの思っているのと同じでないと感じたときは、必ず、現物ももらうようにして下さい。
- (7) さらに、植物や動物以外で薬になるものがある

*1 徳島大学薬学部生薬学教室

かどうかも聞いて下さい。例えばショウユやミンなどの加工品、石などの鉱物などで効くものがあるかどうか。

- (8) これらがすべて聞き終わったら、今度はニワトリ、牛などの家畜、犬や猫などの小動物が病気になったときに使う薬を聞いて下さい。
- (9) これらすべてを聞き終わったら終わりです。ありがとうございましたと言って帰って下さい。

3. 調査結果の集計

調査は、家をすべて訪問する事を目標としたが、廃屋や留守の家も多く、また幸運に人がおられても、民間薬は知らないと答えて、それ以上の質問に答えてくれない人もおられ、又数人の人に一度に聞いた場合は1件に数えたため、結局、調査件数は365件となった。

また、得られた結果の集計に当たり、熱冷まし、熱を取る、熱刈りなどは解熱に統一し、身熱とり、身熱を取るなどは身熱など統一化、簡素化につとめた。

村で得られた名称が、一般的でなく、又実物も確認できず、正しい動・植・鉱物名が判明しなかった物は省いて処理した。

4. 調査結果

人の病気に使われる民間薬は、植物数164種、動物数49種、鉱物その他12種、混合で使う物6種を得た。その結果、民間薬数として、総計225種が得られた事になる(別表)。この数は、今まで調査した他の地域の調査結果と比べても¹⁾、あまり変わらない結果であった。

動物に対して使われる民間薬すなわち動物用薬は、植物数16種、動物数4種、鉱物その他7種が得られた。動物用薬数は総計27種が得られたことになる。この結果も、他の地域の調査と、あまり変わらない結果となった¹⁾。

今回の調査の結果の集計では、いくつかの物は整理の関係で一緒にした。

シソ、アオジソ、アカジソはシソに、カキ、シブガキ、ゴロカキはカキに、サルノコシカケ、マンネンタケはサルノコシカケにした。アカジソとアオジソ

やシブガキとゴロカキは効果が同じであるので一緒にした。サルノコシカケとマンネンタケは本来は違う植物ですが、マンネンタケの実物を見せてもらったときに、マンネンタケではなくサルノコシカケを出されたことによって、サルノコシカケと一緒にした。

また、ドクケシの名で使用されていた生薬(種子)の実物を見せてもらうと、エビスグサに由来する物とハブソウに由来する物がみられた。調査で得られた地方名が別名の場合には、種の同定には注意がいることが改めて感じられた。

調査で得られた名称を見ると、別名で使用される物も多く、それらにはいくつかの共通性が見られた。

1) 生薬名で使用される物

地方名が生薬名であるものにはオウバク(植物名・キハダ;以下同)、カゴソウ(ウツボグサ)、ケツメイシ(エビスグサ)、サンキライ(サルトリイバラ)、ジュウヤク(ドクダミ)などが得られた。

2) 形態から付けられた名称

地方名が植物の形態に由来するものとしてはカズラ(アオツツラフジ)、クズバカズラ(クズ)、シラハガシ、シロガシ、カシノハ、カシノキ(シラカシ)、スイスイバナ、スイバカズラ(スイカズラ)、ツツラカズラ(オオツツラフジ)、ツヤブキ(ツワブキ)などが得られた。

3) 生育場所から付けられた名称

地方名が生育場所に由来するものとしてはイワジシャ(イワタバコ)、タニショウブ(セキショウブ)などが得られた。

4) 味から付けられた名称

地方名が植物の味に由来するものとしてはシブクサ、オンシブクサ、オニシブクサ(ギシギシ)が得られた。

5) 効果から付けられた名称

地方名が効果に由来するものとしてはイシャダオシ(ゲンノショウコ)、ドクケシ(ハブソウ、エビスグサ)、ホネツギソウ、ホネツギグサ(キラソウ)が得られた。

6) 似た名称を持つもの

地方名が似た名前、間違いやすいものとしてはイシャイラズ(アロエ)とイシャダオシ(ゲンノシ

ヨウコ) やハブチャ (エビスグサ) とハブソウが得られた。

7) 訛りによって出来た名称

地方名が訛りによって出来た名称にはアライ (アロエ)、オバコ (オオバコ)、ササギ (ササゲ)、センブリ (センブリ)、タビダツ (マタタビ)、タロメ、タラノメ (タラノキ)、チソ (シソ)、ツワ、ツバブキ、ツヤブキ (ツワブキ)、ドクダン (ドクダミ)、ユグミ、ユムギ、ヨゴミ (ヨモギ) などが得られた。

8) 一般的な別名があげられる物

地方名が日本各地のどこでも使われている一般的な名称²⁾としてはアマネ、ツバナ (チガヤ)、イタンコ、イタズリ (イタドリ)、ウメタケ (ウメノキタケ)、ハブチャ (エビスグサ)、カマッカ (ツユクサ)、シキビ (シキミ)、ズイキ、ズキ、ジイモ (サトイモ)、センダ (センダン)、チソ (シソ)、ツプロ、マンジュシヤゲ (ヒガンバナ)、トンガラシ、タカノツメ (トウガラシ)、ナンバ (トウモロコシ)、ヒヨコグサ (ハコベ)、ペンペンダ (ナズナ)、マツナ、マツナグイ (スギナ) などが得られた。

9) 動物生薬

(1) 変わった名称

地方名が変わった名称のももとしてはタテナブサ、タテナグサ (タテジマ)、ニュードウムシ (カブトムシ) があげられる。

(2) 一般的な別名

一般的な別名ではあるが、別名の方を言われたものにはカンタラ、メメズ (ミミズ)、クサギナノムシ (クサギノシンクイガ)、ササドジョウ、ヌマドジョウ (ドジョウ)、デンデンムシ (カタツムリ)、ハブ、ハメ、ドクヘビ (マムシ) があげられる。ハブは沖縄地方以南に生息しているが、実物を確認または形態を確認の上マムシに当てた。

今回の調査で、初めて薬用が目的に使用されていた植物に出会った。それは、セイタカアワダチソウで茶代用に、また浴湯料として使用されていた。花粉症を克服しようと考えて始めたとのことである。生薬の考え方に同効生薬という考え方があるが³⁾、この発想もそれと同じである。実際の効果については、量や使用時期で効いたり、効かなかったりとまだ明確ではないとのことであった。セイタカアワダ

チソウが新しい生薬として確立するのはまだ先のことであろう。

また、センニチコウはセンニチソウとも言われる植物です。この植物は中国では咳止め、頭痛に用いられる⁴⁾ものですが、日本ではほとんど使用を見ない物です。今回、それが膝痛や関節痛に用いられていたのは驚いた。

また、今まで民間ではほとんど使用されていない有毒植物としてチョウセンアサガオ、トリカブトがあげられる。チョウセンアサガオは葉や種子を鎮痛薬とするのみならず花を花岡青洲が江戸時代に麻沸散⁵⁾の原料として使用していたので麻酔性の鎮痛効果は疑う余地もないものではある。しかし、その毒性で初期には失明も起こった有毒植物である。そのまま、煎じて服用すれば毒性により同じ事の繰り返しとなるが、焼酎漬けとして使用することで、毒性をコントロールしていた。すなわち、この花の焼酎漬けを関節痛、筋肉痛、肩こりなどの痛みの鎮痛薬として、また水虫の改善薬として塗布していた。このことは、かなりの知識を持った上での民間薬の使用といえる。

また、トリカブトの塊根を神経痛に使用しているのが得られた。その方法は、塊根の煎液にハチミツを加えて飲むか、塊根をハチミツ漬けにした後、ハチミツを飲んでその効果を得る方法である。トリカブトにはアコニチン、メサコニチンなどのアルカロイドが含まれておりその毒性は強烈である。それを民間薬としてコントロールしながら使われているのには驚いた。ただ、トリカブトが強すぎると体がしびれると言っていた事から、毒のコントロールは完全でない事もわかった。ただ、普通、トリカブトの毒の軽減には、①加熱して毒を軽減する、②塩蔵して毒を軽減する、などはあるが⁶⁾、ハチミツでの軽減は初めてであり、民間の知恵に驚いた。

シヤクナゲを神経痛に使うのも有毒植物であり、注意が必要である。しかし、シヤクナゲは世界各地で同様な使い方をされている、一般的な薬用植物である。又、ネパールなどでは、シヤクナゲの蜜を、スイカズラと同じように吸っているように、毒性についての認識は少ないように思える⁷⁾。

最後に、現在95歳の高齢で、いまだ眼鏡が必要な

く、さらに、仰向けに寝て、手を体の横に置き、手の反動を使わず、身を起こし、さらに手を使わず直立まで出来るおじいさんに出会った。健康体そのもので、しかも目をつむって歩いても、まっすぐ歩けた。彼は70歳の時、高血圧・胃潰瘍・十二指腸潰瘍・心臓病などの病歴があり、眼も患っていた。その彼が、ある時、10日あまり咳・痰が続いたので、卵の油を飲んでみたところ、咳も止まり、元気になった。そこで、各種の健康法を始め、現在の体を得たとのことだ。そのときの印象が強烈であったので、その健康法と心構えをここに記載する。

〈毎日服用するもの〉

- シソジュースを飲む。
- 卵油を毎日小さじ一杯飲む。
- 牛乳1日1本（カルシウム入り）を飲む。
- 葡萄酒の中にタマネギを切り込み、3日つけ込んだ物を飲む。
- 卵の殻を粉末にし、酵母と共に毎日服用する。
- ニンジンをつきおろしでおろし、ゴマをすり込み、イリコの粉、茶の葉末を加え、酢を少し入れ、だしの素を入れ、油炒めにして毎日食べる。
- ニンニクの粉末を烏がらスープで毎日飲む。

〈さらに、ボケないために〉

- クルミ体操：クルミを両手に2個持ってもむ。

○指体操：両手を合わせ指を動かす。

○腹を朝夕200回ずつたたく。

○耳の体操を行う。

と同時に

○まだ野菜作りをしている（役割を持つこと）

○運動会でまだ走っている（夢を持つこと）

生活をしているとのことだった。

最初、年齢を言われなかったときには70歳代に見えたので、年齢で驚き、動作で驚き、意欲で驚くなど、驚きの連続であった。多くの人が、民間薬の恩恵を被り、このような健康体が得られればよいと思う。

注・文献

- 1) 井川町の民間薬調査 阿波学会紀要 44, 117-134 (1998)。
穴吹町の民間薬調査 阿波学会紀要 45, 109-125 (1999)。神山町の民間薬調査 阿波学会紀要 46, 119-144 (2000)。
- 2) 『民間薬の実際知識』東洋経済新報社 東丈夫、大竹茂清、村上光太郎 1-255 (1979)。
- 3) 『漢方薬の実際知識増補版』東洋経済新報社 東丈夫、村上光太郎 1-279 (1981)。
- 4) 『世界有用植物辞典』平凡社 伊沢凡人 493 (1989)。
- 5) 『原色日本薬用植物辞典3』誠文堂新光社 伊沢凡人 175-176 (1966)。
- 6) 『漢方百話』医道の日本社 矢数道明 406-415, 477-489 (1960)。
- 7) BhujungとGhorepaniの薬草と自然 調査報告書 村上光太郎 1-57 (2001)。

別表 佐那河内村で得られた民間薬
薬用植物の部

植物名	方言・地方名	薬用部位	薬効	加工方法・使用方法
アオツツラフジ	カズラ、アオツツラフジ	蔓	リウマチ	乾燥後、煎じて服用。
アケビ	アケビ	蔓	浮腫、利尿減少	乾燥後、煎じて服用。
アサガオ	アサガオ	葉、種子	虫刺され、便秘	葉を揉んで汁を塗布する。種子を潰して飲む。
アザミ	アザミ	根	神経痛	乾燥後、煎じて服用。
アシタバ	アシタバ	新芽	滋養強壮	天ぶら、みそ汁にして食べる。
アズキ	アズキ	種子	血流改善	煎じて服用。
アセビ	アセビ	葉	打ち身、捻挫	煎液で湿布する。
アマチャヅル	アマチャヅル	全草	更年期障害、便秘	乾燥後、煎じて服用。
アロエ	アロエ、アライ、イシャイラズ	葉	火傷、切り傷、虫刺され、ハチ刺され、ムカデ刺され、かゆみ止め、皮膚の保護材、風邪、喘息、糖尿病、胃痛、腹痛、胃腸疾患、便秘、乗り物酔い、酒に強くなる、二日酔い	葉を貼る。葉汁を塗る。焼酎漬けを服用。小片をかじる。汁を服用。乾燥後、煎じて服用。
イカリソウ	イカリソウ	葉	強壯	煎じて飲む。薬酒にする。
イタドリ	イタンコ、イタズリ、イタドリ	根、根茎、全草葉、莖	風邪、咳止め、咽喉痛、インフルエンザ、解熱、腹痛、つわり、あせも、糖尿	乾燥後、細かく刻み、煎じて服用。塩で揉んで、漬け物とする。莖の汁を服用。
イチジク	イチジク	葉	婦人病、冷え性	乾燥後、煎じて服用。浴湯料とする。
イチョウ	イチョウ、ギンナン	葉、種子(銀杏)	高血圧、脳梗塞、夜尿症	乾燥後、煎じて服用。薬酒にする。銀杏を食べる。
イネ	モチシバ、イネ	全草	シラミ駆除	ワラを大釜で炊きだし洗う。
イノコヅチ	イノコヅチ	根	神経痛	乾燥後、煎じて服用。
イワタバコ	イワジシャ、イワタバコ	全草	胃部疾患	乾燥後、煎じて服用。
ウコン	ウコン	根	風邪、解熱、健胃、胃腸疾患、疲労回復、更年期障害、糖尿病、低血圧、肝臓病、二日酔い	根を切って乾燥して煎じる。生の根をすりおろし、お湯を入れて服用。
ウスバサイシン	サイシン、ウスバサイシン	根茎	解熱	乾燥後、煎じて服用。
ウチワサボテン	ウチワサボテン	葉	腎臓病	土鍋でどろどろになるまで炊く。甘草を加える。
ウツボグサ	カゴソウ、ウツボグサ	全草	風邪、膀胱炎、婦人病、体調不良	乾燥後、煎じて服用。
ウメ	アオウメ、ウメ	ウメ酢、梅酒、果実、梅肉エキス、梅干しの汁、梅酢、梅干し、梅仁	とげ抜き、切り傷、化膿、打ち身、低血圧、疲労回復、夏ばて、咳止め、風邪、解熱、熱中症、食欲不振、食中毒、腹痛、整腸、下痢、赤痢、腸チフス、胸焼け、歯痛、中風予防、かすみ目、ストレス	梅を塩漬けにする。青梅を、木の臼でひきあるいはワサビおろしですり、種子を除き、汁をとろ火で煮詰めエキスにする。耳掻き2杯を水で溶いて飲む。未熟梅を瓶に入れて腐らし、患部に付ける。梅干しを茶に入れて飲む。梅干しを干して口に含む。足の裏に貼る。虫歯の穴に詰め込む。ウメと砂糖で湿布薬にする。核を割った種子を食べる。
ウメノキタケ	ウメノキタケ、ウメタケ	全体	癌、肝臓病	乾燥後、煎じて服用。
ウラジログシ	ウラジログシ	葉	腎臓結石、胆石、糖尿病	乾燥後、煎じて服用。
エノコログサ	エノコログサ	実、葉	滋養強壮	乾燥後、煎じて服用。
エビスグサ	ケツメイシ、ハブチャ、ドクケシ、エビスグサ	種子	便秘、腹痛	乾燥後、煎じて服用。
オウレン	オウレン	根茎、根	胃痛	乾燥後、煎じて服用。
オオツツラフジ	ツツラカズラ、オオツツラフジ	根	リウマチ	乾燥後、煎じて服用。
オオバコ	オオバコ、オオバコ	葉、種子、根	切り傷、排膿、吸い出し、腫れ物、おでき、乳腺炎(張る)、胃部疾患、体調不良、風邪、咳止め、解熱、視力減退、ツメが割れて出血、解毒	焼いて貼る。(塩で)揉んで貼る。乾燥後、煎じて服用。炊いて食べる。量が過ぎると下痢する。
オクラ	オクラ	果実	便秘	生を刻んで、醤油をかけて食べる。
オトギリソウ	オトギリソウ	全草	こしげ、子宮の病	陰干しにし、煎じて服用。
オニフスベ	オニフスベ	全体	切り傷、止血	粉(胞子)を患部に付けるとべたべたしない。
オミナエシ	オミナエシ	根	夏の胃腸虚弱	乾燥後、煎じて服用。
カキ	カキ、シブガキ、グロカキ	葉、へた、果実の皮	高血圧、便秘、疲れ眼、咳止め、しゃっくり止め	乾燥後、煎じて服用。茶代用。漬け物に入れると味が良くなる。

植物名	方言・地方名	薬用部位	薬効	加工方法・使用方法
カキドオシ	カキドオシ	茎葉	膀胱炎	乾燥後、煎じて服用。
カタクリ	カタクリ	鱗茎、デンプン	疲労回復	お湯で溶いて飲む。
カリン	カリン	果実	咽喉痛	乾燥後、煎じて服用。
カワラヨモギ	カワラヨモギ	葉、生汁	胃痛	乾燥後、煎じて服用。
カンゾウ	カンゾウ	ストロン	腹痛	煎じて服用。
キキョウ	キキョウ	根	気管支炎	乾燥後、煎じて服用。
キササゲ	キササゲ	果実	体調不良	乾燥後、煎じて服用。
ギシギシ	シブクサ、オンシブクサ、オニシブクサ、ギシギシ	根	排膿、足の痛み	小麦粉と練り、湿布薬にする。揉んで貼る。
キハダ	オウバク、キハダ	樹皮	胃痛	乾燥後、煎じて服用。
キュウリ	キュウリ	種子・果汁	火傷、日焼け	種子やへたの汁を塗る、パックする。
キョウチクトウ	キョウチクトウ	葉	皮膚病	乾燥後、煎液で洗う。
キランソウ	ホネツギソウ、ホネツギグサ、キランソウ	全草	捻挫、打ち身、骨折、心臓病	煎液で湿布する、塩で揉んで貼る。
キリ	キリ	樹木	火傷	材を炭にして、粉を油で練って患部に貼る。
キンカン	キンカン	果実	咳止め、咽喉痛、風邪、百日咳、ハシカ	ハチミツに漬ける。煎じて飲む。甘草と共に煎じる。焼酎漬け、キンカン酒、茹でてその汁を飲む。砂糖で煮付ける。生をかじる。
キンミズヒキ	キンミズヒキ	全草	腎臓病	乾燥後、煎じて服用。
クコ	クコ	葉	高血圧、胃腸疾患、疲労回復	茶代用。煎じて飲む。果実をクコ酒にする。
クサギ	クサギ	葉汁	皮膚病	葉汁を塗布する。
クズ	クズ、クズバカズラ	根	強壯、風邪	乾燥後、煎じて服用。
クチナシ	クチナシ	果実	便秘	乾燥後、煎じて服用。
クマザサ	クマザサ	葉	高血圧	乾燥後、煎じて服用。
クリ	クリ	葉	ウルシかぶれ	葉を揉んで付ける。乾燥後、煎じて服用。
ケイ	ケイヒ	樹皮	躁鬱病	茶代用、煎じて服用。
ケイトウ	ケイトウ	全草	腎臓病	乾燥後、煎じて服用。
ゲンノショウコ	イシャダオシ、ゲンノショウコ	全草	腹痛、胃痛、胃腸疾患、健胃、下痢、便秘、風邪、解熱、腰痛	乾燥後、煎じて服用。茶代用。薄く煎じると便秘に、濃く煎じると下痢に。
ゴボウ	ゴボウ	葉	腹痛、胃痛	揉んで汁を飲む。
コムギ	ウドンコ、コムギ	種子	打ち身、湿布	小麦粉を酢で練って貼る。
ゴンズイ	クロハゼ、ゴンズイ	樹皮	風邪、解熱	皮を剥いで、乾燥後、煎じて服用。
コンニャク	コンニャク	茎の汁	ハチ刺され、虫刺され、ムカデ刺され、鎮痛、痒	患部に貼る。
サイシン	サイシン	根	解熱、風邪、咳止め	乾燥後、煎じて服用。
サクラ	サクラ	樹皮	咳止め	乾燥後、煎じて服用。
ササ	ササ	葉	風邪	乾燥後、煎じて服用。
ササゲ	ササギ・ササゲ	豆	血液浄化、(産後の)強壯	炊いて食べる。
サトイモ	サトイモ、ズイキ、ズキ、ジイモ	茎	虫刺され、ハチ刺され、かゆみ止め、腫れ物	すって付ける。葉汁を塗る。お酢を付けて、皮を剥くと痒く無い。
サフラン	サフラン	雌しべ	解熱	熱湯に浮かべて飲む。
サルトリイバラ	サンキライ、サルトリイバラ	根茎	咳止め	乾燥後、煎じて服用。
サルノコシカケ	サルノコシカケ、マンネンタケ	全体	癌	小さく刻み、乾燥後、煎じて服用。
サンショウ	サンショ、サンショウ	葉	ハチ刺され、切り傷	すり鉢で練って、患部に貼る。痛みも早く取れる。
シイタケ	シイタケ	柄、全体	頭痛、高血圧	煎じて飲む。
シキミ	シキミ、シキビ	葉	ウジ殺し	煎液を入れる。
シソ	シソ、チソ、アオジソ、アカジソ	葉	暑気、夏ばて、食欲不振、あせも、湿疹、解熱、ムカデ刺され、糖尿病	シソジュースは水2L、生の葉100~300g、クエン酸30g、砂糖(氷砂糖)800~1kgで作る。茶代用。塩で揉んで貼る。開花前に収穫。乾燥後、煎じて服用。
シャガ	シャガ	葉、根茎	解熱	乾燥後、煎じて服用。
ジャガイモ	ジャガイモ	塊根	神経痛、関節痛	湿布薬。
シャクナゲ	シャクナゲ	葉	神経痛	乾燥後、煎じて服用。有毒植物につき使用に注意。

植物名	方言・地方名	薬用部位	薬効	加工方法・使用方法
シャクヤク	シャクヤク	根	婦人病	乾燥後、煎じて服用。
ジュズダマ	ジュズダマ	種子	疔	乾燥後、煎じて服用。
シュロ	シュロ	葉	脳溢血	乾燥後、煎じて服用。
ショウガ	ショウガ	根茎	喘息、扁桃炎、口内炎、咽喉炎、風邪、保温、解熱	小麦粉と練って貼る。ショウガ湯を飲む。すってみそ汁に入れて飲む。
ショウブ	ショウブ	根、葉	打ち身	煎液で湿布する。
シラカシ	シラカシ、シラハガシ、シロガシ、カシノハ、カシノキ	樹皮、葉	解熱、肝臓病、膵臓病、腎臓病、腎臓結石、胆石、その他の結石	乾燥後、煎じて服用。茶代用。
スイカズラ	スイスイバナ、スイバカズラ、スイカズラ	全草	排尿障害、前立腺肥大	乾燥後、煎じて服用。
スイセン	スイセン	球根	鎮痛、排膿、打ち身、患部の解熱、腫れ物、吸い出し	すり下ろし、布に乗せて貼る。
スイバ	スイバ	根	切り傷	すり下ろし、患部に貼る。
スギ	スギ	葉	水虫	アルコール抽出し、患部に塗布する。
スギナ	スギナ、マツナ、マツナグイ	全草、葉	湿疹、排尿障害、糖尿病、前立腺肥大、喘息	茶代用、乾燥後、煎じて飲む。
スダチ	スダチ	果実	化粧水	果汁を日本酒に入れて使う。
スベリヒユ	スベリヒユ	全草	虫刺され	葉汁を患部に塗布する。
セイトカアワダチソウ	セイトカアワダチソウ	蕾の付いた花	花粉症	茶代用。浴湯料。
セキショウブ	セキショウブ、タニショウブ	葉、根茎	血液浄化、血流改善、血圧、保温、腰痛、神経痛	洗って刻み、乾燥後、煎じ（30分位）で服用。浴湯料。
セリ	セリ	葉	芳香性健胃	料理に使う。
センダン	センダ、センダン	果実、樹皮	下痢、虫下し	煎じて飲む。
センナ	センナクギ、センナ	茎、葉	便秘	煎じて飲む、振りだし薬とする。
センニチコウ	センニチコウ、センニチソウ	葉	膝痛、関節痛	乾燥後、煎じて服用。
センニンソウ	センニンソウ	葉	膝痛・腰痛、足の関節痛、その他の鎮痛	葉を手で揉んで、足の踝（くるぶし）から指3本上に貼る。しかし、赤い水膨れが出来る。針でそれを裂いて、またはそのまま、その上にビワの葉を1日2回貼る。痛みが無くなり、治りきる人、再発する人あり。1時間貼ると良い。
センブリ	センブリ、センブリ	全草	腹痛、胃痛、腸の異常、下痢、疲労倦怠、滋養強壯、乗り物酔い、二日酔い、風邪、解熱、心臓病	乾燥後、煎じて服用。熱湯で振り出しにする。朝茶碗に1杯ずつ飲むと病気知らずになる。赤ちゃんが産まれると煎じて飲ませる。
ダイオウ	ダイオウ	根茎	便秘	煎じて服用。
ダイコン	ダイコン	根	風邪、咳止め、解熱	すりおろして飲む。ハチミツに漬ける。おろし汁にハチミツを混ぜる。
ダイコンソウ	ダイコンソウ	全草、花、根	腹痛、胃腸疾患、腎臓病、心臓病、解熱、風邪、強壯	乾燥後、煎じて服用。乾燥したイタドリと共に煎じて服用。
タケ	タケ	タケの酢	水虫	患部に塗布する。
タバコ	タバコ	刻みタバコ	切り傷、止血	患部に付ける。
タマネギ	タマネギ	赤い皮、茶色い皮、鱗茎	夜尿症、高血圧、強壯、咳止め	乾燥後、煎じて服用。鱗茎を酢に漬けて食べる。すり下ろして飲む。
タラノキ	タロメ、タラノメ、タラノキ	樹皮、根皮	糖尿病、癌	乾燥後、煎じて服用。
タンポポ	タンポポ	根	足の痛み	乾燥後、煎じて服用。
チガヤ	アマネ、ツバナ、チガヤ	根	解熱、喘息	乾燥後、煎じて服用。
チドメグサ	チドメグサ	葉	止血	揉んで患部に貼る。
チャ	チャ、パンチャ	生葉	胃腸疾患、虫刺され	咬んで汁を飲む。汁を付ける。
チョウセンアサガオ	チョウセンアサガオ	花	関節痛、筋肉痛、肩こり、水虫	焼酎漬けを塗布する。
チョウセンニンジン	チョウセンニンジン	根	風邪、強壯	煎じて服用。
ツバキ	ツバキ	果実	洗髪料	椿油を使う。
ツクサ	ツクサ、カマッカ	全草	肝臓病、関節炎	乾燥後、煎じて服用。
ツルムラサキ	ツルムラサキ	蔓・葉	高血圧	料理に使う。
ツワブキ	ツワ、ツワブキ、ツバブキ、ツヤブキ、オコゼ	葉	打ち身、膝痛、肩こり、鎮痛、腫れ物、関節水腫、膝の関節痛、足の痛み、耳下腺炎、解熱、切り傷、火傷	そのまま貼る。焼いて揉んで貼る。

植物名	方言・地方名	薬用部位	薬効	加工方法・使用方法
トウガラシ	トウガラシ、トンガラシ、タカノツメ	果実	血流改善	焼酎に漬けておく。風呂に入れる。
トウキ	トウキ	根	婦人病	乾燥後、煎じて服用。
トウゴマ	ヒマ、トウゴマ	ひまし油	食中毒	油を服用する。
トウモロコシ	トウモロコシ、ナンバ	毛	解熱、風邪、腎臓病、排尿障害、前立腺肥大、糖尿病、肝臓	乾燥後、煎じて服用。
ドクダミ	ジュウヤク、ドクダン、ドクダミ	全草、葉、地上部	腹痛、胃痛、胃腸疾患、解熱、解毒、排膿、おでき、腫れ物、吹き出物、麦粒腫、切り傷、火傷、疲労倦怠、滋養強壮、美容、ニキビ、排尿障害、頭痛、風邪、血の道、更年期障害、婦人病、高血圧、血圧、排尿障害、原爆症、皮膚掻痒症、肥満、ダイエット、アレルギー、アトピー、便秘、下痢、夏ばて、蓄膿、冷え性、捻挫、足（腰）の痛み、水虫、強壮、化粧水	花期の全草を採集し、乾燥後、煎じて飲む。生をすって砂糖をまぶして飲む。葉を鼻に詰める。風呂に入れる。フキの葉に包んで焼く（どろどろになる）。クッキングホイルで包んで焼く。ぬらした新聞紙で包んで焼いて貼る。焼いて貼る。火であぶって貼る。あぶった葉を練って障子紙に塗り、患部に貼る。生を揉んで貼る。生葉を塩もみして付ける。茶代用。乾燥後、焼酎漬けにし、患部に塗布する
トリカブト	トリカブト	塊根	神経痛	トリカブトを煎じて、ハチミツを加えて飲む。ハチミツ漬けにする。トリカブトが強すぎると体が麻痺する。
ナズナ	ベンベングサ、ナズナ	全草	糖尿病	乾燥後、煎じて服用。
ナタマメ	ナタマメ	果実	蓄膿、痔、麻痺	豆を煎じて日に1杯くらい飲む。
ナンテン	ナンテン	果実、葉	咳止め、虫垂炎、鎮痛、乳腺炎（張る）、蚊・虫刺され	乾燥後、煎じて服用。葉を揉んで貼る。塩で揉んで貼る。卵の白身が黄味とすり鉢ですって貼る。
ニッケイ	ニッキ	根皮	胃痛、風邪	乾燥後、煎じて服用。
ニラ	ニラ	葉	子供の下痢、腹痛	おじやに混ぜる。
ニワトコ	ニワトコ	全草	骨折、筋肉痛	煎液で湿布する。
ニンジン	ニンジン	根	滋養強壮	油炒めにする。
ニンニク	ニンニク	ニンニク酒、塊茎	低血圧、疲労回復、風邪、滋養強壮	酢に漬けて食べる。粉末を烏がらスープで毎日飲む。
ヌルデ	フシノキ、ヌルデ	フシの場所、実	破傷風、解熱	ぶつぶつの部分を採って飲ませる。果実を熱湯に入れて、2～3分で出し、乾燥後、粉末にして飲む。粉を耳掻き2～3杯飲む・特効薬。煎じて飲む。
ネギ	ネギ、ネブカ	白い茎	風邪、咽喉痛、ムカデ刺され、ハチ刺され、腫れ物、鎮痛	焼いて喉に当てる。ネギの白いところを揉んで付けると特効がある。痛みが止まる。
バイキセイ	バイキセイ	全体	癌	乾燥後、煎じて服用。
ハコベ	ハコベ、ヒヨコグサ	全草	虫垂炎	絞り汁を飲む。
ハチク	ハチク	中の薄い皮	切り傷、止血、百日咳	患部に貼る。飲む。マッチ箱に入れておき、切り傷に巻く、すぐ血が止まる。
ハッカ	ハッカ	葉	芳香性健胃	料理に使う。
ハトムギ	ハトムギ	種子	疔	乾燥後、煎じて服用。
ハブソウ	ドクケシ、ハブソウ	葉、種子、全草	虫刺され、胃腸疾患、胃部不快感、下痢、解毒、吹き出物、切り傷、夏ばて、あせも	煎じて服用。焼酎漬けを患部に塗布する。茶代用。生の実を食べる。
ヒガンバナ	マンジュシャゲ、ヒガンバナ、ツプロ	ツプロ（鱗茎）	膝の関節水腫、膝の痛み、神経痛、解熱、吹き出物、吸い出し	おろして湿布する。つなぎに小麦粉、酢や卵を使い、足の裏に貼る。
ビナンカズラ	ビナンカズラ	葉、蔓	洗髪料	水中で揉むと粘りが出る。
ヒノキ	ヒノキ	葉	水虫	アルコール抽出して患部に塗布する。
ヒムロ	ヒムロノキ、ヒムロ	幹、葉	蚊取り線香代用	燃やして煙をだす。
ビワ	ビワ、ジビワ（自然生え）	葉、種子	捻挫、打ち身、切り傷、腫れ物、皮膚病、肌荒れ、鎮痛、かゆみ止め、虫刺され、肩こり、あせも、風邪、咳止め、扁桃炎、糖尿病、心臓病、高血圧、血圧、血液浄化、血流改善、腹痛、滋養強壮、イビキ、癌、肝臓病、胆嚢炎、各種の痛み、神経痛、解熱、花粉症、疲労倦怠、高コレステロール、排尿障害、冷え性	葉を洗い、乾燥後、刻み、焼酎に漬ける（葉80～800gを一升に）。この液を塗布する。乾燥後、煎じて服用。茶代用。きれいに洗い、患部に貼る。若い葉を生のまま煎じて服用。古い葉を生のまま貼り付ける。煎じて風呂に入れる。葉を皮膚の上に置き、モグサで灸をする。種子を粉にして飲む。かんで食べる。焼酎漬けを飲む。砂糖と焼酎（等量）に漬ける
フキ	フキ	葉、露のとう、皮、茎	切り傷、火傷、止血、解熱、炎症（冷やす）、ハチ刺され、ムカデ刺され、虫刺され、かゆみ止め、マムシの咬み傷、吸い出し、咳止め、扁桃炎、口内炎、咽喉炎、腹部疾患、癌	手で揉んで貼る。汁を塗布する。塩で揉む。他の葉で包んで焼き、どろどろにして患部に塗布する。ハチミツを入れて炊く。
ブドウ	ブドウ	ワイン	強壮	赤ワインにタマネギを漬けて、3日たった物のワインを飲む。

植物名	方言・地方名	薬用部位	薬効	加工方法・使用方法
ヘクソカズラ	ヘクソカズラ	果実	しもやけ	実を潰して汁を塗布する。
ヘチマ	ヘチマ	茎	化粧水	茎の汁を塗布する。
ヘビイチゴ	ヘビイチゴ	果実	下痢、疫痢	果実をビンに入れて発酵させる。
ベンケイソウ	ベンケイソウ	葉	虫刺され、ムカデ刺され、ハチ刺され	葉の裏を焼き、薄皮を剥いて貼る。
ホウセンカ	ホウセンカ	花	あせも、虫刺され、ハチ刺され、かゆみ止め、切り傷、火傷、シミ（肝斑）、腹痛、咽喉痛、咳止め、腕の使い痛み、リウマチ、鎮痛、腰痛、アトピー	アルコール抽出、ホワイトリカー、焼酎漬けにする。
ホオズキ	ホウズキ、ホオズキ	根	墮胎	乾燥後、煎じて服用。
マタタビ	マタタビ、タビダツ	果実、虫えい	リウマチ、神経痛、疲労回復	乾燥後、煎じて服用。
マツ	マツ、マツバ	葉、ヤニ	強壯、解熱、喘息、血圧、血液浄化、血流改善、胸焼け	焼酎漬け、松葉酒を作る。
ミカン	ミカン	皮	冷え性	乾燥後、風呂に入れる。
ミツバ	ミツバ	葉	芳香性健胃	料理に入れる。
メグスリノキ	メグスリノキ	葉、木	肝臓病	乾燥後、煎じて服用。
モモ	モモ	葉	あせも（赤ちゃん）	行水の時入れる。お風呂に入れる。
モロヘイヤ	モロヘイヤ	葉	疲労回復、滋養強壯	料理に使用。
ヤブカンゾウ	ヤブカンゾウ	花、葉	血便、黄疸	乾燥後、煎じて服用。
ヤブコウジ	ヤブコウジ	果実	解熱、喘息	乾燥後、煎じて服用。
ヤマゴボウ	ヤマゴボウ	根	腎臓病	乾燥後、煎じて服用。
ヤマモモ	ヤマモモ	果実	嘔吐、口渇	ヤマモモ酒にする。
ユキノシタ	ユキノシタ	葉、全草	中耳炎、外耳炎、耳に水が入ったとき、歯痛、鎮痛、切り傷、火傷、止血、腫れ物、おでき、排膿、化膿、吸い出し、かゆみ止め、咳止め、高血圧、頭痛、腹痛、解熱	塩で揉んで耳に入れる。葉を揉んで咬む。天ぷらにする。揉んで汁を飲む。葉を焼いて貼る。煎じて飲む。足の裏に貼る。
ユズ	ユズ	果実、果皮、種子	肌荒れ、化粧水、保温、腰痛、神経痛、リウマチ	風呂に入れる。黒焼き末を服用。乾燥後、焼酎に漬けて服用。
ヨモギ	ユグミ、ユムギ、ヨゴミ、ヨモギ	葉	切り傷、止血、火傷、鎮痛、あせも（かゆみ止め）、皮膚病、ハチ刺され、排膿、鼻血、胃腸疾患、解熱、肋間神経痛、血液浄化、血流改善、高血圧、安眠枕、疲労倦怠、滋養強壯、婦人病、生理不順	葉を揉んで汁とともに付ける（付けると黒くなるが化膿しない）。塩と共に揉んで付ける。風呂に入れる。乾燥後、煎じて服用。揉んで鼻に詰める。餅、団子、天ぷら、みそ汁に入れて食べる。浴湯料。
レモンパーム	レモンパーム、レモンパーム	葉	精神安定	茶代用。

薬用動物の部

動物名	方言・地方名	薬用部位	薬効	加工方法・使用方法
アオダイショウ	アオダイショウ	全体	肋膜炎、結核	黒焼き。
アカガエル	アカガエル	全体	疳の虫	焼いて食べる。
アゲハチョウ	アゲハチョウ	全体	化膿、吸い出し	揉んで貼る。
アシナガバチ	アシナガバチ	全体	強精	生を食べる。
アマガエル	アマガエル	全体	胃部疾患、喘息、肝臓病	生を飲む、食べる。
イセエビ	イセエビ	殻	解熱、ハシカ、疳の虫	煎じて飲む。
イナゴ	イナゴ	全体	強壯、滋養強壯	食べる。黒焼きにする。炒って食べる。
イノシシ	イノシシ、シシ	胆嚢、肝臓、脂	胃痛、あかぎれ、肝臓	冷凍保存した物を削って飲む。脂肪を炊き詰めた物を塗る。乾燥後、削って飲む。
イモリ	イモリ	全体	媚薬	黒焼き服用。
ウシ	ウシ	角、ツメ、牛乳	風邪、解熱、火傷	煎じて飲む。搾ったすぐに付ける。
ウナギ	ウナギ	胃、胆嚢、キモ	滋養強壯	食べる。
ウマ	ウマ	馬肉	打ち身、湿布	患部に貼る。
エビ	エビ	殻付き乾燥エビ	関節痛	炒って粉にする。スプーン1杯をご飯、みそ汁に入れる。
カエル	カエル	卵油	火傷	患部に塗布する。
カタツムリ	カタツムリ、デ ンデンムシ	全体	疳の虫、よだれ	焼いて食べる。黒焼きを飲む。
カニ	カニ	殻	解熱、ハシカ	煎じて飲む。
カブトムシ	カブトムシ、ニ ユウドウムシ	幼虫	ヒョウソ	腸を抜いて、これで貼る。日に2～3回取り替える。
ガマガエル	ガマガエル	全体	胃潰瘍	生のまま飲む。

動物名	方言・地方名	薬用部位	薬効	加工方法・使用方法
カマキリ	カマキリ	全体	痔	カマキリの腹を出して、その液を塗る。
カメ	カメ	血	肺病	服用する。
キツネ	キツネ	脂	しもやけ、あかざれ	患部に塗布する。
クサギノシンクイガ	クサギナノムシ、クサギノシンクイガ	虫体	疳の虫	炒って食べる。
クマ	クマ	胃、胆嚢、脂	腹痛、胃腸疾患、あかざれ	冷凍保存した物を削って飲む。脂肪を吹き詰めた物を塗る。乾燥後、削って飲む。
コイ	コイ	生き血	肺病	飲む。
コジュケイ	コジュケイ	卵	強壯	食べる。
サル	サル	脳味噌、肉の味噌漬け	婦人病	薫製、食べる。
サワガニ	サワガニ	全体	ハシカ	煎じて飲む。
シジミ	シジミ	全体	肝臓	みそ汁にして食べる。
シマヘビ	シマヘビ	全体	内臓が弱い	干して焼いて食べる。黒焼きにする。
シヨクヨウガエル	シヨクヨウガエル	全体	滋養強壯	焼いて食べる。
スッポン	スッポン	全体	滋養強壯	料理して食べる。
タテジマ	タテナブサ、タテナグサ、タテジマ	全体	結核、肺病、肋膜炎、強壯	煎じて服用。食べる。皮を剥いて臓器を捨て、黒焼きにする。
タニシ	タニシ	全体	肝臓病、おでき	食べる。患部に貼る。
タヌキ	タヌキ	胃、胆嚢、脂	胃痛、胃痙攣、しもやけ、あかざれ	乾かし、お湯に入れて、黒くなったお湯を飲む。冷凍保存した物を削って飲む。
ドジョウ	ドジョウ、ササドジョウ、ヌマドジョウ	全体	面ちょう、腫れ物、化膿、排膿、打ち身、蓄膿、痔、解熱	裂いて皮の方を皮膚に当てる。叩きつぶして貼る。白砂糖と生きたドジョウを入れ、どろっとした液を患部に塗る。飲む。小さいのを生のまま飲み込む。
トノサマガエル	トノサマガエル	全体	夜尿症	食べる。
ナメクジ	ナメクジ	全体	マムシの咬み傷、喘息	砂糖漬けにしておき、傷口に貼る。そのまま飲む。
ニワトリ	ニワトリ	卵、卵油、卵殻、タマゴの薄皮	歯痛、火傷、心臓病、滋養強壯	卵の薄い膜を痛いところに貼る。白身を付ける。殻を炊いて、叩いて粉末とし、飲む。
ヌルデミミフシアブラムシ	フシノムシ、ヌルデミミフシアブラムシ	全体	強壯	煎じて服用。
ハチ	ハチノコ	全体	滋養強壯	焼いて食べる。
バッタ	バッタ	全体	胃腸疾患、滋養強壯	フライパンで炒る。焼いて食べる。
ヒゴイ	ヒゴイ	全体	肺炎	食べる。
ヒト	ヒト	歯ぐき、尿、くみ取り便所の上澄み、へその緒	ハチ刺され、火傷、虫刺され、切り傷、中耳炎、腰から下の病気	塗る。濾過して、煎じて飲む。
ヘビ	ヘビ、ヤドイシ、クロブチナ	抜け殻、皮、全体、キモ	解熱、風邪、結核、肋膜炎、肺病、疲労倦怠、滋養強壯	抜け殻を煎じて飲む。皮を煎じる。薫製にする。黒焼きにする。皮を剥いて焼いて食べる。
マムシ	ハブ、ハメ、ドクヘビ、マムシ	全体、肝臓、皮を除いた身、骨、皮	打ち身、切り傷、止血、虫刺され、マムシの咬み傷、破傷風、鎮痛、ヒョウソウ、水虫、皮膚病、おでき、腫れ物、化膿、排膿、吸い出し、火傷、捻挫、神経痛、各種の痛み、風邪、肺病、結核、胸痛、肋膜炎、強精、滋養強壯、疲労倦怠、疲労回復、夏ばて、下痢、解熱、更年期障害（閉経前）、気管支炎、喘息、腹痛、腹の病気一般、血流改善、癌	骨を干して粉にして飲む。骨を黒焼きにする。乾燥後、炊き出して食べる。付け焼きにして食べる（とうまい）。乾燥後、焼いて食べる。乾燥した物を粉にし、炒って食べる。生を缶に入れて焼き、つついて粉にし、患部に付ける。皮を干して貼る。干した皮をお酢に漬けてふやかして貼る。粉にして貼る。焼酎漬けを飲む。焼酎漬けを飲むと血清が効きにくい。焼酎漬けを食べると鼻血が出る。焼酎漬けで湿布する。水を換えて糞を出しきり、焼酎漬け（1年以上）にする。
ミツバチ	ハチ、ミツバチ	ハチミツ、ハチノコ	疲労回復、口内炎	食べる。ハチミツを塗布する。
ミミズ	ミミズ、メメズ、カンタラ	全体	解熱、風邪、外耳炎	乾燥した物を煎じる。生きたミミズを耳にはわす。赤ちゃんの肌のような色をしている、大きく白っぽいふと短いミミズがよいという人、小さいミミズが良いという人もいる
ムカデ	ムカデ	全体	解熱、火傷、切り傷、ムカデ刺され、腫れ物	ムカデを食用油に漬けておく。ムカデ油を塗布する。飲む。ムカデの汁を付ける。焼酎漬け。

動物名	方言・地方名	薬用部位	薬効	加工方法・使用方法
ヤギ	ヤギ	乳	強壯	乳を飲む。

鉱物その他の部

鉱物・その他名	方言・地方名	薬用部位	薬効	加工方法・使用方法
アブラ	アブラ	油、サラダ オイル	火傷	塗布する。
アンモニア	アンモニア	アンモニア	虫刺され	患部に塗布する。
コオリ	コオリ	氷	日本脳炎、火傷	氷を口に含ませる、冷やす。
サトウ	サトウ	砂糖	口内炎、口内痛	口に入れて含んでおく。
シオ	シオ	塩	虫刺され、切り傷、火傷、腹痛、咽喉痛、 解熱、腰を暖める、疳の虫	患部に付ける。擦り込む。炒って袋に入れ、 患部（お腹など）に当てる。湿布する。
シOUCHUウ	シOUCHUウ	焼酎	止血、腹痛	消毒。飲む。
シOUNOウ	シOUNOウ	樟脳	骨折、捻挫	小麦粉と混ぜて布に付け、患部に貼る。
シOUユ	シOUユ	醤油	火傷	塗る。
ス	オス、ス	酢	水虫、咽喉痛、疲労倦怠、滋養強壯	桶に酢を入れ、足をつける。お水で割ってう がいをする。
スミ	スミ	スミ粉	胃部疾患、整腸	粉にして服用する。
ミズ	デンシスイ	水	体調不良	電子水を毎日服用する。
ミソ	ミソ	味噌	火傷、切り傷(昔から大きな傷に使用)、神経 痛、糖尿病、湿布、血の道、産前産後の疾患	患部に3~5cm位を貼ると、水膨れや痛みが無 く治る。イナゴを炒って入れる。味噌薬。

植物の部・動物用薬

植物名	方言・地方名	薬用部位	使用動物	加工方法・使用方法・効果(薬効)
アセビ	アセビ	葉	牛の病気、動物の病気	牛の毛にわく虫・シラミ、動物にわいたシラ ミに葉を煎じて体にかける(洗う)。
アロエ	アロエ	全体	犬の病気	犬の調子が悪いときに食べさせる。
ウメ	ウメ	ウメ酢	牛の病気	牛の暑気、夏ばて、風邪。
クサ	クサ	草	犬の病気	犬は調子が悪いと自分で草を捜して食べる。 犬がクサを食べお腹に毛がたまつたのをはく
ゲンノショウコ	イシャダオシ	全草	ニワトリの病気	イシャダオシを煎じて飲み水に混ぜると卵を 生むようになる。
シキミ	シキビ	果実	猫の病気	2~3個を、黒い実を飲みます。毒を飲んでい ても治る。
センブリ	センブリ	全草	ニワトリの病気	ニワトリに元気がなくなったとき。
タバコ	タバコ	ヤニ(ズ)	ヘビ	ヘビ避け。
タマネギ	タマネギ	鱗茎	犬の病気	犬に食べさせると死ぬ。
トウガラシ	トンガラシ、タ カノツメ	果実	ニワトリの病気	ニワトリが弱ったときに水に溶いて飲ませ ると元気になる。元気付け、ニワトリの足が立 たなくなったとき、ニワトリの夏ばて。
ナンテン	ナンテン	葉	コクゾウムシ	米の虫よけ。
ニンニク	ニンニク	鱗茎	ニワトリの病気	ニワトリの夏ばて防止にニンニクを刻んで餌 に混ぜる。
ヒムロ	ヒムロ	枝葉	牛の防虫	ウシの虫よけに、焼いて煙を出す。
ビワ	ビワ	葉	牛の病気	解熱。
マタタビ	マタタビ	果実	猫の病気	疲労回復、猫が好き。
ヤツガシラ	ヤツガシラ	茎	牛のお産	たくさん煎じる。

動物の部・動物用薬

動物名	方言・地方名	薬用部位	使用動物	加工方法・使用方法・効果(薬効)
ウサギ	ウサギ	尿	ニワトリの病気	虫が湧いたときにかける。
ニク	ニク	生肉	犬の病気	犬が元気になる。
ニワトリ	ニワトリ	卵の黄味	犬の病気	犬が変な物を食べたとき、腹痛に生卵の黄味 を飲みます。
マムシ	マムシ	焼酎漬け	馬、牛の病気	馬に食べさせると良く走る。ウシの産後に飲 ませる。

鉱物その他の部・動物用薬

鉱物・その他名	方言・地方名	薬用部位	使用動物	加工方法・使用方法・効果（薬効）
カラツ	カラツ	カラツ	ニワトリ	ニワトリが食べると殻を作る。
クスリ	クスリ	ヒトのクスリ	犬の病気	犬が調子が悪いときに食べさせる。
サケ	サケ	酒	ニワトリの病気	ニワトリの病気でトウガラシでもだめなとき、酒を飲ます。
シオ	シオ	塩	コイの病気、犬の病気	コイや金魚の水槽に入れると元気になる。犬が毒を飲んだとき。牛の食欲がないときに、牛の舌に塩を付けて洗う。動物に飲ますと元気になる、塩水を飲ます。
シヨクヨウアブラ	シヨクヨウアブラ	油	犬の病気	犬が毒を食べて苦しんでいるときに飲ます。犬などの病気に飲ます。
スミ	スミ	炭	犬の病気	犬が下痢するとき粉にして飲ます。炭。
イオウ	アブライシ	硫黄	犬の病気	犬の消化不良。虫下し。